

さめがわ

[広報] 鮫川村広報紙

9

2005 No. 617
平成17年9月1日発行



【クローズアップ】

新渡瀬地区の
新たなスタート

■行政情報

介護保険制度の一部が変わります ほか

■ほっとニュース

富田・渡瀬区で完納50年達成記念式典を開催
夏の夜のコンサート ほか

【表紙写真】
遠ヶ竜つかみどり大会（8月
15日）・ヤマメを追いかける
子どもたち



多くの人でぎわったヤマメつかみ大会

住みよい地域を作るために

村では、渡瀬地区の地域づくりを始めていく中で、地区の皆さんに住環境に関する満足度や地域の将来像などを聞くため、渡瀬区民（小学四年生以上）と

**自分たちの地域は
自分たちの手で：**

今回の事業実施にあたっては「地域づくり」が重要なポイントになることから、村営住宅の建設などのハード面の整備とともに、渡瀬区全体の活性化につなげようと「地域づくり検討会」が設立されました。地域づくり検討会には各種団体の長や村職員など約三十名が参加。これまでに五回の検討会が開催されています。活動では、今後の事業内容についての協議のほか、委員のみなさんの協力で渡瀬小学校の記念の品を保存するメモリアル館（図工室を改修したもの）が整備されています。



検討会の様子



メモリアル館内には思い出の品がいっぱい

■メモリアル館を整備
渡瀬地域づくり検討会では、体育館裏の図工室を委員のみなさんで整理整頓し、「渡瀬小学校メモリアル館」に様変わりさせました。作業は休日を利用して行われ、小学校の思い出となる大切な記念の品々を展示。これから屋根や外壁の修繕を行いたいとの要望も出ています。

村営住宅事情
現在、村内には「広畠」・「前田」・「見渡」の三つの村営住宅があり、三十三世帯（約百十名）が入居しています。さらに平成十六年度から、これまで教員住宅として使用していた建物を定住促進住宅として整備し、現在十三世帯（三十三名）が入居しています。

村では、これまでに住宅の整備を進めてきましたが、近年では、いずれの住宅においても入居を希望する方が待機している状況です。また一方では、住環境を整えることにより村外への人口の流出を防ぎ、村の活性化につながるのではないかとの期待も寄せられており、村営

住宅の建設について検討が重ねられてきました。こうした状況の中、村営住宅建設にあたり、従来は公営住宅建設補助事業を利用し建設していましたが、この事業が廃止となってしまったため、平成十六年度に創設された「まちづくり交付金事業」で整備を行うこととしました。

「まちづくり交付金」とは

この「まちづくり交付金」は、地域住民の生活の質の向上と、地域経済・社会の活性化を目的として創設された事業であり、地域活性化につながることが期待されています。また、従来補助対象とならなかつた「村単独

事業」を包括して補助率を検討する新しいスタイルの事業であるため、計画区域と一体化を図る事業の展開ができます。

そこで、村では渡瀬区を対象に、廃校利用検討委員会で協議を進めていた旧渡瀬小学校と今年四月から統合となつた旧渡瀬保育所などを活用した事業の展開を図ろうとこの「まちづくり交付金」による公営住宅の建設を核にした地域づくりを提案しました。

この交付金事業の特徴は、事業計画後の「事後評価制度」です。評価制度では事業実施期間（計画では三年）の中で、事業を実施したことにより定住人口や住環境満足度、地域交流事業などがどれだけ増えたかが評価



村営住宅建設予定地（旧渡瀬小）

渡瀬地区の 新たなスタート



■ヤマメつり・つかみどり大会を開催

渡瀬区青少年健全育成会による「ヤマメつかみ大会」は、毎年実施していることもあり、子どもたちはヤマメの特徴をとらえて次々と捕まえていました。捕まえたヤマメは、すぐその場で焼かれ、子どもたちはおいしそうにほおばっていました。また、約20年前まで行われていた「渡瀬川つり大会」が久慈川漁協の協力で復活。村内外から約150名が訪れ、釣りを楽しみました。



子どもたちの声が聞こえなくて寂しい

蛭田区長 本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今日は堅苦しくならないで話し合っていただきたいと思います。まずは、現在の渡瀬地区の印象や現状などについてお話をください。

國井 統合されて学校がなくなってしまった、子どもたちの声が聞こえなくなつたことと、村の人たちが集まる機会がないのが寂しいですね。

遠藤 うちは学校のすぐ下だったので、子どもたちの声が聞こえたので、

蛭田区長 なかなかつながるといふが、さうなつたこと。だからこそ、子どもたちの声が聞こえたのです。

芳賀(洋) 子どもたちの声が聞こえなくなつたときにみんななくなつてしまつて、孤立していく感じを受けます。

芳賀(正) 渡瀬に来て六年になりますが、小学校や保育所などなくなつてしまつて、これからがどうなるのかなと心配になります。

国井 渡瀬には、施設利用にある程度制限があると自由に人を集めれる施設があればいいなと思います。

遠藤 店街の人にも協力してもらえるようオーブンに出入りできて、地域の商人にとっては大切な施設があらばいいなと思います。



子どもたちの声が聞こえなくて寂しい

今年度より始まつた「地域づくりモデル地区事業」では、自分たちの地域を元気にしていくと地域づくり検討委員会が協議を重ねています。ここでは蛭田渡瀬区長が司会となり渡瀬地区的現状や地域づくりに必要なことなどを住民のみなさんとともに話し合いました。

座談会参加者
蛭田吉郎さん(田野上・渡瀬区長)
芳賀洋子さん(田苗下・保健推進委員)
遠藤しのぶさん(木之根)
区長 この前の検討委員会では、旧保育所の再利用を考えました。そのため、何とかいいアイディアを出して事業を成功させたいと思っています。そのあたりはどうでしょうか。

國井 渡瀬には、常日頃話し合いかかるような何かができるよう何か人を集めることが必要で、そのためには渡瀬に人を集めることが必要です。そのあたりはどう

遠藤 この前、この検討委員会では、これまで子どもの声が聞こえていた旧渡瀬保育所の利用計画について検討。区内の地域交流のほか、休日を利用して帰省した親せきや農村体験を行うために来た方が気軽に自炊・宿泊できる施設に改修する。

■まちづくり交付金事業実施予定図(旧小学校周辺)



主な意見

- 何かを決めるときは子どもの意見を聞いてほしい。
- 無料バスを一時間ごとでもいいので出してほしい。

- 冬場の通勤が大変なので道路環境を整備してほしい。
- 買い物をするときが不便。
- 新しい道路よりも新しい観光施設をつくつてほしい。
- 村を離れた人たちがいつまでも愛し続けられる環境の保持。因なのでは、通信の不便さが人口減少の要因になる。
- 子どもを育てやすい環境を作っていくべき。

■地域づくり検討会の主な検討事項

現在、廃校となっている小学校校舎の解体を行う前に、図工室をメモリアル館として改修・利用。記念の品をメモリアル館に集め、いつまでも渡瀬小学校を感じさせる空間を整備。

[事業実施] 平成17年5月～9月

村営住宅建設
・1棟2世帯(木造2階建)
×4棟
・1棟5世帯(小世帯向け住宅)
[事業実施] 平成17年度～19年度

地域の拠点であった小学校跡地に、公営住宅だけでなく子どもの遊べる遊具や東屋などのある広場を整備し、「地域住民が集える空間」を確保する。また体育馆を利用しやすい環境も整える。

[事業実施] 平成18年10月～平成19年3月

今まで子どもの声が聞こえていた旧渡瀬保育所の利用計画について検討。区内の地域交流のほか、休日を利用して帰省した親せきや農村体験を行うために来た方が気軽に自炊・宿泊できる施設に改修する。

[事業実施] 平成17年8月～平成18年10月

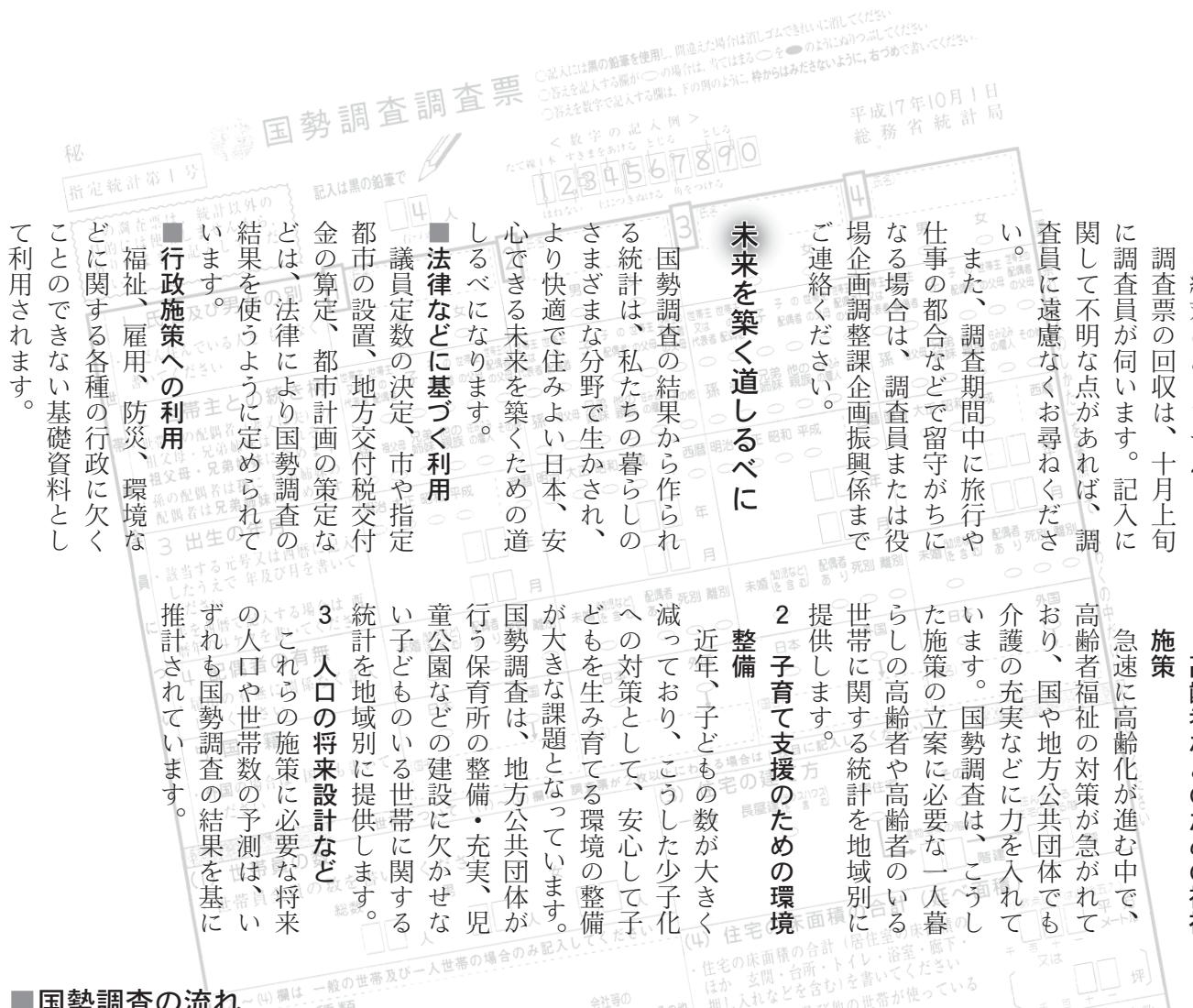
平成17年度より実施してきた事業・地域づくりで行ったイベントを振り返る。地域活動集の編集や事後評価を検討会で行う。

[事業実施] 平成19年9月～3月

毎年約2,000人の観光客が訪れる「江龍田の滝」には、20年前に整備した遊歩道があるが、老朽化が進み危険箇所が多くある。景勝地を生かすため早急な改修が必要。また、地域住民協働で遊歩道の改修やごみ拾いができるかを検討し、観光客を増やす。

[事業実施] 平成18年4月～平成19年9月

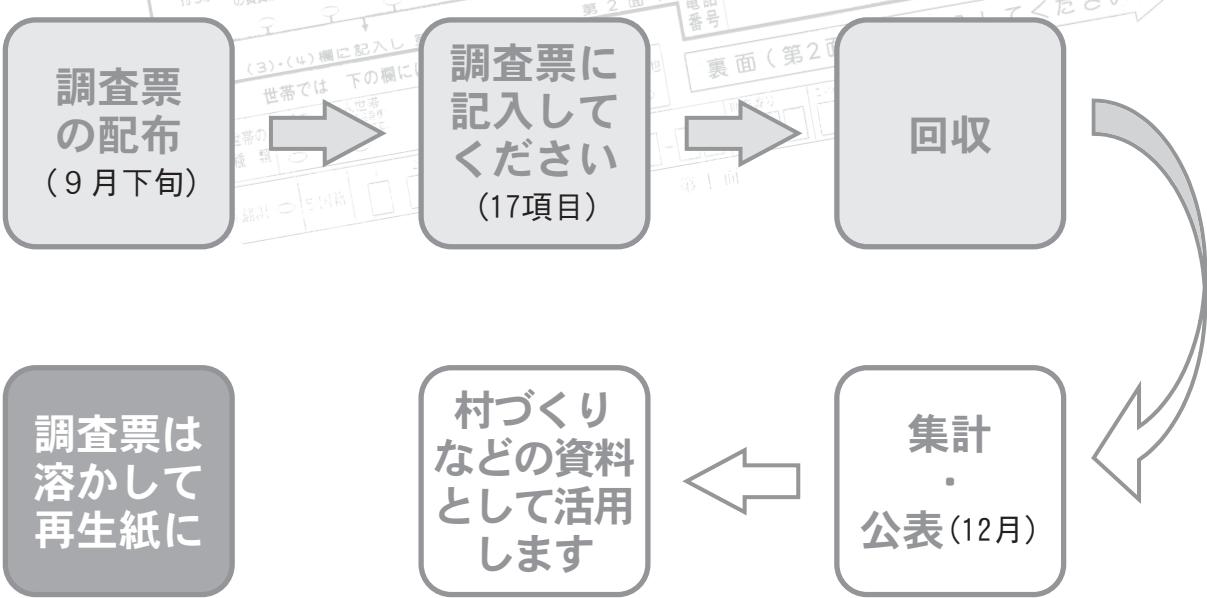
これらの事業を行っていくことで、一人でも多くの住民が地域づくりに関心を持ち、多くの来村者が渡瀬地区の人たちや美しい景観に触れ「また来たい」と感じる地域づくりにつなげていく。



と/orは絶対にありません。
調査票の回収は、十月上旬
に調査員が伺います。記入に
関して不明な点があれば、調
査員に遠慮なくお尋ねください。
また、調査期間中に旅行や
仕事の都合などで留守がちに
なる場合は、調査員または役
場企画調整課企画振興係まで
ご連絡ください。

■法律などに基づく利用
■行政施策への利用
■福祉、雇用、防災、環境など
に関する各種の行政に欠くことのできない基礎資料として利用されます。

■国勢調査の流れ



あなたの調査票には
日本の大切な未来が
つまっています。

■問い合わせ 村企画調整課企画振興係 ☎ 49-3115

5年に一度の一大イベント！

今年は国勢調査の年です。

十月一日、全国一斉に国勢調査が行われます。国勢調査は五年に一度、日本に住んでいるすべての人を対象に行われるもので、行政の基礎となる人口・世帯の実態を明らかにする大規模な統計調査です。特に、今年の調査結果は、人口の転換期にあるわが国の最新の実態を明らかにする重要な調査資料となります。

あなたの調査票が、より暮らしやすい未来の姿を描きます。

調査は全部で17項目

調査する内容は、世帯全員の男女の別、出生の年月、就業状態、住居の種類など全部で十七項目です。

わが国は、少子化や高齢化が急速に進んでいます。これからの中子・高齢社会に対応するためには、住宅・福祉・交通・雇用など、さまざまな行政の施策などに生かされる貴重な基礎資料になります。

分野での対策が必要になります。調査の結果は、私たちの将来の生活基盤を支えるデータになります。

九月下旬に調査員が調査票を配布します。調査票が届いたら、「調査票の記入のしかた」をよく読んで、住んでいる人について、もれなく記入してください。記入された内容は、法律によって厳密に守られます。統計を作成する以外の目的に使われたりすることはありません。

調査員が伺います

News

鮫川村農産物直売所の愛称は、

「手・まめ・館」に決定

名付け親は関根由美子さん(荻ノ沢)



直売所愛称審査会（8月8日）

旧幼稚園園舎を改修し、今秋オーブン予定の村農産物加工・直売所の愛称審査会は8月8日、役場会議室で行われました。

七月に愛称を募集したところ、六十八名から九十五点の愛称が寄せられました。審査員は、大樂村長、湯塗村商工会長、村直売所運営協議会準備委員会構成員（四名）らが務め、親しみやすさなどをポイントに厳正に審査。その結果、関根由美子さん（大字赤坂西野字荻ノ沢）の作品「手・まめ・館」が

愛称は95点の
作品の中から決定

先月の十二日には、直売所整備に合わせた農産物直売会「夕市」が開催されました。夕市は、地産地消を推進するため、旧幼稚園で初めて実施。村内で栽培された野菜や果樹などの農産物をはじめ、こんにゃくや豆腐などの加工品、工芸品がズラリと並びました。会場にはオープン前から大勢の人たちで賑わいました。

名付け親大賞を受賞しました。「手・まめ・館」は、手作りで手まめな人が作つた新鮮な食材を持ち合わせ、元気な村をイメージして付けられたもので、表彰は直売所のオープニングイベントで行われます。

たくさん的人が詰め掛けた「夕市」

右／大勢の人で賑わった夕市
下／村内の新鮮な農産物が並びました

Young Plaza



いさか ひろのり
井坂 広徳さん（23歳）
〔赤坂西野字茅在住〕

誕生日 昭和57年3月
血液型 A型
星座 おひつじ座
趣味 買い物、昼寝
性格 優しい

「仕事をどんなことをしていますか？」
「工具を作る仕事をしています。
「仕事で心がけていることはありますか？」
「休日はどんな風に過ごしていま
すか？」
「子どもたちと一緒に買い物に行つ
たり過しています。
「これからしてみたいことはなん
ですか？」
「みんなで旅行に行くこと、ゆく

ゆくは自分の家を建ててみたい
ですね。
「村について望むことはあります
か？」
「村内どこでも携帯電話が使える
ようにアンテナを整備してほしい
ですね。それと、村内で買い物す
る場所がないのでコンビニがあれ
ば便利になつていいと思います。

PTA奉仕作業
鮫川小学校PTAは、学校教育活動の援助として、環境整備委員会が中心となり、各部の保護者が分担し、年五回の奉仕作業を計画しています。

八月二十一日、第三回目の奉仕作業が実施されました。今回は、赤坂中野方部の保護者の方々が学校敷地周辺の草刈り、花壇の草むしり、校舎前通路の砂入れなどを行いました。季節柄、草が大変繁

学校だより

(第11回)

鮫川小学校 編
堀 騩 校長
生徒232名

茂していましたが、短時間のうちにきれいになりました。おかげで整備された環境で第二学期を迎えることが出来ました。



同じく八月二十一日、PTA奉仕作業の後、方部委員会が中心となつて空き瓶回収を実施しました。この空き瓶回収は、PTAの事業として鮫川小学校統合以来毎年実施していますが、今年もまた保護者の方々をはじめ、地域の皆様に協力をお願いします。収益金は、子どもたちの学習教材の購入などにあて、教育活動の充実のために役立てられています。

空き瓶回収

鮫川の 昔話

第九話

木え根の穴の話

(文・切り絵 中井恒峯)

するとどうでしょう。穴の中では赤鬼や青鬼が宴を開いていました。鬼たちは、おむすび大好き。

お礼に小槌をあげましょう。と、おじいさんは鬼たちと一緒に宴を楽しんだあと、帰り際に小槌を土産にもらいました。

むかしむかしの話です。今まで渡瀬字木え根地区に働き者のおじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは今日もいつものように山奥の畑で農作業です。おじいさんは一生懸命畑を耕しています。

いつの間にか昼時になりました。

おじいさんは、おむすびが飛び込んだ穴に落として、穴の中は真っ暗で何も見えません。おじいさんがそつと穴に耳を当ててみると何やら中から聞こえています。

「おむすびおいしいよー。」
「おむすび大好き。おいしいよー。」
おじいさんは、これは不思議だと思い、もうひとつおにぎりを穴の中にころりんと落としてみました。するとまた穴から歌がはずみで包みから丸いおむすびが転げ落ちてしまいました。おじいさんは、坂道をじろじろ駆かけ出しました。

※この話は筆者が村を訪ねた際に民話などを採録し作られたものです。
(福島史談会長・広畠出身)

「これには、おじいさん。おむすびたくさんありがとうございます。おじいさんにお礼を言い、おじいさんも鬼たちと踊りました。

おじいさんは、穴から歌を聞いていた。おじいさんは穴から聞こえてくる不思議な歌を聞いているうちに、うつかり足をすべらせて自分も穴の中にころりんと入ってしまいました。

「もうお昼か。」とおじいさん。
「おなかがすいたね。」とおばあさん。おばあさんは畑に持ってきた包みを取り出しました。すると包みを広げたとたん、はずみで包みから丸いおむすびが転げ落ちてしまいました。おじいさんは、坂道をじろじろ駆かけ出しました。

おじいさんは、穴から歌を聞いていた。おじいさんは穴から聞こえてきます。

「おむすび大好き。おいしいよー。」
おじいさんは穴から聞こえてくる不思議な歌を聞いているうちに、うつかり足をすべらせて自分も穴の中にころりんと入ってしまいました。

